

# ビデオ 通信

2013年  
9月2日(月)  
No.3711

月・木曜日発行(月8回)  
1ヶ月¥11,550(税込)  
発行:飯澤剛 編集:齋藤浩一

**ユニ通信社**

〒106-0047  
東京都港区南麻布5-2-37  
DEPECHE MODE 1F  
TEL:03-5422-7515  
FAX:03-5422-7516  
E-mail:vt@uni-press.net

IMAGICA 麻布十番スタジオ

## 2室目のMA「604」を新設 同一拠点における編集&MAのニーズに対応 Nuendo + Nuage SystemでCM制作のInbox Mixを提案

(株)IMAGICAはこのほど、CM制作向け拠点の1つである麻布十番スタジオに、新しいMA「604」を開設し、7月22日から稼働を開始した。同スタジオでは2つ目、同社のCM制作向け拠点では8つ目のMAとなるもので、オンライン編集とMA作業を同一拠点で行うニーズの高まりに応えた。メインDAWには、Steinberg Nuendoを導入し、東京映像センター(五反田)、銀座七丁目スタジオの



麻布十番スタジオに開設した新MA「604」

MAとのデータ互換を可能とした。コントロールサーフェースに国内初のYamaha + Steinberg Nuage Systemを導入することで実現する“NuendoによるCM制作のInbox Mix”を提案していく。

今回の増設により、麻布十番スタジオのポストプロダクション体制は、Flameの「601」「606」「607」、Flintの「602」「603」という5つのオンライン編集室、コンソールにSSL C200、DAWにNuendoを導入したMA「605」、Nuendo + NuageのMA「604」および会議/プレビュールーム「600」という構成になった。

### テレシネだったスペースを有効に活用

銀座七丁目スタジオ、東京映像センターと並び、IMAGICAのCM制作向け拠点の1つである麻布十番スタジオは、都営地下鉄大江戸線/東京メトロ南北線・麻布十番駅の5b出口に直結したジュールAビル6階にある。2005年10月にオープンし、今年で9年目となる。

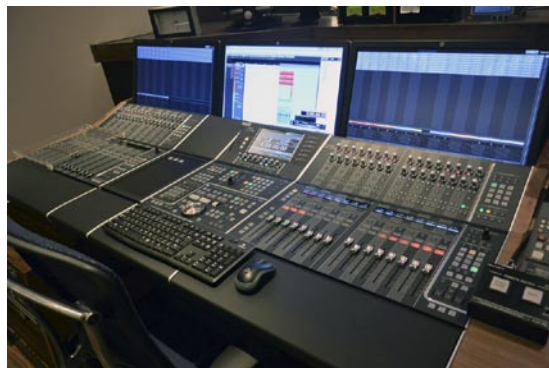
同スタジオは昨年、Autodesk Flame導入の「606」編集室を新設、CM対応のオンライン編集室×5室の体制となった。一方、MAは「605」が1室のみで、編集室の数と比べてMAが不足しており、麻布十番スタジオのMA増設による効率的なワークフローへのニーズが高まっていたという。

CMプロダクションユニット 五反田スタジオ シニアサウンドスーパーバイザーの村越宏之氏は、〈当社はCM制作向け拠点として銀座七丁目スタジオ、東京映像センター、麻布十番スタジオの3拠点を有していますが、ここ数年、「編集とMAを同一拠点で行いたい」というご要望を多くいただいています。また、編集の最終日夕方にMAを設定し、クライアントをお呼びして"完成レビュー"的なことまで行うことも多くなっています。しかし、麻布十番スタジオにはMAが1室しかなく、お客さまにご迷惑をおかけしたり、受注できる案件そのものを失ってしまうケースもありました。五反田には複数のテレシネを有していることもあり、今回、麻布十番スタジオのテレシネルームとして稼働していた「604」の区画そのままを使って、新たなMAを開設することとしました〉とする。

### Nuage System を国内初導入

同社では2012年度事業として、CM制作向け拠点にあるMA×7室のメインDAWを、従来のFairlight DreamシリーズからSteinberg Nuendoへの更新を一斉に進め、今年3月までに全ての作業を完了させた。

今回の「604」もメインDAWにはNuendoを採用、東京映像センターや銀座七丁目スタジオのMAとのデータ互換を可能とした。さらに、コントロールサーフェースとして



Yamaha + SteinbergのNuage System(写真上)を導入したのが最大の特徴だ。Nuage Systemの導入は国内で初めてとなる

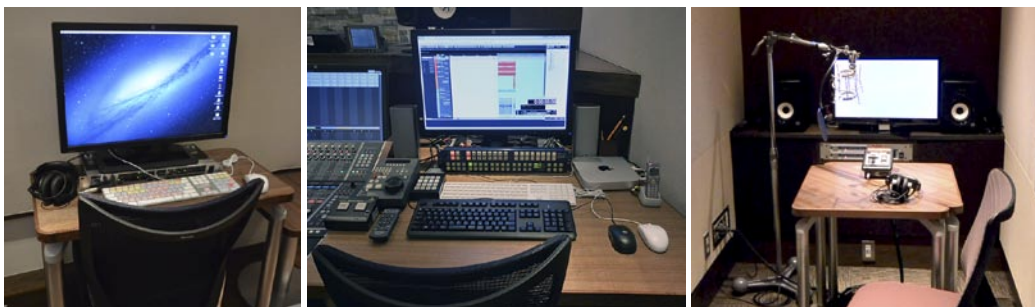
村越氏は〈データ互換性の観点から、メインDAWとしてNuendoの導入は決まっていたが、昨年のInter BEEでNuendo用のコントロールサーフェース「Nuage System」が発表されました。CM制作への有効性などを確認し、(株)ヤマハミュージックジャパンからも全面協力が得られることから、Nuendo + Nuage Systemによるシステム構築を決定しました〉とする。

これによって、同スタジオでは、同社のCM制作拠点では初めて、従来のDAW + ミキサーによる作業ではなく、DAW内で全て完結する"Inbox Mix"での作業が可能となった。

### "NuendoによるInbox Mix"を提案

Inbox Mixは、Avid Pro Tools + ICONというスタイルで一般的に行われているが、Nuendoを全面導入しているIMAGICAのCM音声生産設備では初めての試みとなる。Inbox Mixでは、全ての情報をセッションファイルで一括管理しているため、作業データをPC上で開くだけで、以前のMA作業環境が瞬時に再現できる。村越氏は〈今回はNuage Systemの導入によって実現する"Nuendoを使ったInbox Mixによる新しいCM制作のカタチ"を提案していきます。直し作業の多いCM制作において作業時間の短縮につながり、顧客メリットを生み出すと考えています。今後、お客様からのフィードバックなどを蓄積していきたい〉とする。

また、Nuage Systemの大きな特徴として、DAWが最大3台まで切り替えできる。今回はNuendoに加えて、音響効果マンの持ち込みや外部スタッフで使い慣れた人も多いPro Tools



↑左から「604」の音効スペース、アシスタントスペース、アナブース

「604」のクライアントスペース →

HDX も導入、ニーズによって両システムを切り替えて MA 作業が行えるようにした。

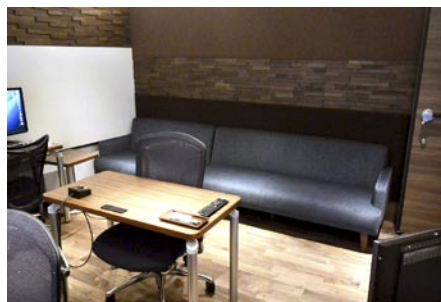
〈外部の方々にはなるべく作業フローの変更なく使用していただけるような配慮をしています〉(村越氏)

映像に関しては、現状では DAW とワークビデオマシンを同期させて運用していたが、今回はワークビデオマシンを用いず、Nuendo 内のビデオトラックにファイルを貼り込むスタイルを採用している。H.264 や ProRes など、CM 制作で一般的に使用されているフォーマットに対応、解像度も HD(1920 × 1080)なら変換なくそのまま使用可能。

CM 制作におけるファイルベース・ワークフローが普及したこと、編集最終日と MA を同日に設定することが多いこと、CM 制作がメインなのでデータ量がそれほど大きくはならないことも併せて、麻布十番スタジオ内のサーバーを活用したファイルによる素材等の受け渡しを拡充させていく。

また、CM 制作の拠点(銀座七丁目スタジオ・麻布十番スタジオ・東京映像センター)間は、ダークファイバーによる拠点間接続も装備しており、他の拠点で行った編集や MA データのファイル転送も可能となっている。

さらに、現状の CM としての最大ボリュームゾーンをメインターゲットとしているため、2ch STEREO 対応としている。



麻布十番スタジオのマシンルーム

### 圧迫感のない空間に

隣接する MA 「605」より若干小ぶりな新しい MA 「604」の内装は、茶とベージュをベースとした非常に落ち着いた雰囲気が特徴。内装デザインのテーマは「圧迫感」のない空間だ。

村越氏は〈決して広くはない空間の中で居住性を確保するのがポイント。いかに広く見せるかではなく、圧迫感がないよう心がけ、ソファ等比較的コンパクトでバランスの良いモノを選び、デッドスペースなどが生じないように設計をお願いしました〉とする。

なお、内装は(有)安田テクニカルビルド、音響設計は(株)アコースティックエンジニアリングが担当した。

(次ページに続く)

### いかに「良い1日」を提供できるか

ポストプロダクションは「装置産業」の面もあるが、その装置を使う“人間”を中心とした「サービス業」でもあるという村越氏。〈映像の制作費や時間が制限される中で、「いかに来ていただいたお客さまに満足いただくか、ホスピタリティの向上」が、今後のキーになると考えています。最高のマシンスペックだけでなく、作業フローの改善やエンジニアのスキルアップなどによる作業時間の短縮、レンダーリングや作業をお待ちいただく時間の過ごし方、掃除の行き届いた室内、スタッフの笑顔や元気なあいさつなど、お客さまに「今日は良い1日だった」と思っていただけの要素は1つではありません。映像や音声の技術者としての技術力とは別に、ホスピタリティも広い意味での技術。それぞれのお客さまにとっての「良い1日」を提供できるか——当社がポストプロダクションとして生き残っていくための重要なポイントだと考えています〉と話している。



村越宏之氏

◇IMAGICA 麻布十番スタジオ 東京都港区麻布十番 1-10-10 ジュール A 6F  
TEL03-5549-1491 FAX03-5549-1492